

水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association



第17回写真コンテスト 最優秀賞「楽しい稲刈り」

2011
AUTUMN

No.292

CONTENTS

口絵「日本女子プロゴルフ選手権大会に出店しました」

千葉県功労者表彰	1
水資源功績者表彰	2
国営北総中央用水「沖地区通水式」の開催	3
水土里の集い～第34回全国土地改良大会 in みやぎ～に参加して	4
千葉市都市農業交流センターのご紹介	6
両総ウォーク	8
第17回 美しい農村環境写真コンテスト 表彰式・作品評	9
「水の週間」中学生 水の作文コンクール入賞作品	13
「ちばの直売所フェア」開催	18



日本女子プロゴルフ選手権大会に出店しました

千葉農業事務所

9月8日(木)～11日(日)の4日間、千葉県市原市のキングフィールズゴルフクラブで開催された「日本女子プロゴルフ選手権大会」に地元の「さんわ担い手組合」が出店し、地元産の新米と野菜を販売しました。

新米は「うまかっぺ米」と命名し、350円/kg、野菜は1袋100円という安さで販売しました。

さんわ担い手組合は、経営体育成基盤整備事業三和養老地区における担い手組織です。今後も地元農産物の販売促進のため、このような機会を積極的に活用していきたいと思えます。



うまかっぺ米

女子プロも覗いてました



チーバくんも応援に



平成23年 文化の日 千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ顕著な功績を挙げ、千葉県の発展に多大な貢献をされた方々に対し表彰があり、次の方々が「農林水産功労」として表彰されましたので紹介いたします。

ご功労に対し改めて感謝の意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

受賞者の紹介

石橋 和夫氏

平成8年3月から香取市水郷土地改良区の理事に就任以来、平成11年4月からは同理事長として、水郷地域の洪水被害防止対策や土地改良区の円滑な運営にご尽力されました。

特に、幹線排水路においてはゴミの不法投棄が激しく、水路際で廃材の焼却等が行われたため、水稻に被害が発生しておりました。このため、「香取郡水郷土地改良区だより」を発行し、改良区組合委員の意識の向上や地域住民への情報発信を行い地域環境の改善と洪水被害の解消に務めました。理事長に就任した平成11年には「大雨緊急時会議」を立ち上げ関係機関との連携を図り、排水問題の解消に尽力されました。

理事長就任後には改良区だよりを毎年発行し、組合員に対し情報発信を積極的に行い、透明性のある改良区運営に努め、事務の合理化にも寄与しました。更に、土地改良施設への理解を深め、農家の維持管理の軽減を図るため、地域住民や地元企業などが参加する「大倉地区会」を設立し、農村環境の保全活動にいち早く取り組みました。その後、平成19年度からは「農地・水・環境保全向上対策」にも参加し、現在も地域農業の発展と農村環境の保全に貢献をしています。



梶山 昇氏

昭和63年6月、千葉県干潟土地改良区の理事に就任以来、平成20年6月までの20年間にわたり、健全な運営や用水の安定供給、施設の維持管理等に尽力し土地改良区の円滑な運営に貢献しました。平成4年から12年までは大利根用水運営委員会の委員として大利根用水の合理的な運営と適正な水配分が円滑に行われるように努めました。平成12年6月筆頭理事となり、理事長・副理事長の補佐役を務め、会計担当理事として適正な会計処理に取り組む等、理事としての責務を全うしました。

また、平成9年10月に春海支区の支区長に就任し地域のリーダー役として、平成16年7月からは経営体育成基盤整備事業の事業化に向けた推進準備委員長を務め、地元農家の取りまとめに奔走し、経営体育成基盤整備事業「春海地区」等の事業化に大きく寄与し、広域農業基盤緊急整備促進事業「干潟地区」の推進に尽力するなど、地域農業の発展に貢献しました。





第35回水の週間 水を考えるつどい 平成23年度 水資源功績者表彰

去る8月1日、東京北の丸の科学技術館サイエンスホールにて、皇太子殿下をお迎えし、平成23年度水資源功績者の表彰式が行われました。

千葉県からは個人の部において、印旛沼土地改良区の清水豊勝理事長が受賞され、三井国土交通副大臣から表彰状を授与されました。受賞理由は「農業用水の循環利用を強化する『国営流域水質保全機能増進事業 印旛沼二期地区』を着工に導き、水利用の合理化と印旛沼の水質負荷軽減に貢献した。」というものです。

当日は皇太子殿下から御言葉も頂戴し、また、全日本中学生水の作文コンクール、水とのふれあいフォトコンテストの表彰式も併せて行われました。



写真中央は三井国土交通副大臣、その左隣が清水理事長

※中学生水の作文コンクールの千葉県地方審査会の入賞作品については、13ページ以降に掲載されています。

地域

清水氏がご活躍されている印旛沼土地改良区は、千葉県北西部に位置し、印西市外9市2町に跨る面積約64km²、組合員数約9千名の土地改良区です。北部に利根川が流れ、印旛沼を囲む北総台地の下に展開する低平、肥沃な農地が受益地域となっています。一方、地域排水に目を向ければ印旛沼流域540km²、流域内の人口約76.4万人にも関係する土地改良区でもあります。

略歴

- 平成 5年11月～平成 9年11月 印旛沼土地改良区総代
- 平成 9年12月～平成13年11月 印旛沼土地改良区理事
- 平成 13年12月～現在 印旛沼土地改良区理事長

功績内容

- ・印旛沼土地改良区理事長として、水資源の有効利用と印旛沼への環境負荷軽減を目的に、農業用水の循環利用を強化する「国営流域水質保全機能増進事業」を着工に導き、併せて環境保全型農業の推進に努力されている。
- ・環境との調和への配慮の理念を踏まえ、印旛沼流域水循環健全化会議、印旛沼水質保全協議会等の活動と連携し、自ら「地域用水対策協議会」を立ち上げ、代掻き時の濁水排出抑制技術やちばエコ農業の普及・広報、また地域力との協働による環境保全活動などに力を注いでおられる。

国営流域水質保全機能増進事業
農業用水排水施設の更新に併せて水質保全機能の増進を図る取組を実施

排水機場	3 箇所
用排水機場	3 箇所
用水路	52.9km
排水路	1.1km
水管埋設型	1 式

循環かんがいと環境保全型農業の推進により水質を保全



左から2番目：マイクを持って挨拶している清水理事長



環境保全活動前のガイダンス



環境保全活動(外来水草の除去)

国営北総中央用水「沖地区通水式」の開催

～水を活かす。台地の底力を磨く。～

関東農政局北総中央農業水利事業所

7月27日(水)、北総中央農業水利事業所は、受益地の一つである八街市「沖地区」(受益面積約80ha)での本年度からの通水を記念して、通水式を開催しました。

沖地区は、北総中央地区の中でも有数の畑地帯であり、平成22年度までに、地域の畑地かんがいの基幹施設となる10号調整水槽と、末端用水路及び加圧機場を整備しました。これらの施設により、地下水に代わる利根川からのかんがい用水を供給することと併せて、地域用水機能(防火用水)を維持・増進するものです。

通水式には、北村八街市長(北総中央用水土地改良事業推進協議会会長)、長谷川北総中央用水土地改良区理事長、地元沖土地改良区の林理事長ら、関係者約70名が参加しました。

式では、まず野中事業所長が、「畑かん地区としては、八街市滝台地区に続く2番目となる沖地区において、10号調整水槽と防火用水機能を発揮する末端用水路を整備し、営農と地域の安全の双方から地域のお役に立つことができます。」と述べました。

北村市長からは、「昨年度完成した滝台地区と合わせ、今後の畑かん地区によい効果が波及することを祈念しています。」との挨拶があり、また、長谷川理事長からは、「今年は、これまで干ばつ傾向であり、北総中央用水の利用により、農家の収益が上がることを願っています。」との挨拶が寄せられました。

なお、通水式の日には先立ち、八街市消防団本部第9分団の協力を得て、防火用水の予行演習を行い、地域の防災機能向上への理解を深めていただくことができました。



野中事業所長の概要説明



北村八街市長の挨拶



スプリンクラー(デモ)



10号調整水槽



地域用水(防火用水)演習

3.11東日本大震災復興支援 水土里の集い

～第34回

10月19～21日の3日間、「3.11東日本大震災復興支援 水土里の集い～第34回全国土地改良大会inみやぎ～」に参加するため宮城県に行ってきました。

19日は千葉県土地改良事業団体連合会主催の現地研修会があり、最初に訪れた北上川の脇谷水門では、江戸時代伊達家により仙台平野の開発や舟運のため行われた北上川の瀬替工事や、その後生じた地域対立が北上川第一期河川改修工事により解消され新たな土地改良事業の展開が可能になったことを知りました。また、次に訪れた、元禄潜穴^{げんろくせんけつ}では品井沼干拓のため、沼の水を直接海に排水する2.6kmにわたる隧道を元禄時代に整備し新田開発が行われたとのことで、印旛沼の洪水を東京湾に排水する計画と同様の事業が日本各地で行われ、当時の土木技術水準の高さに感心させられました。なお、品井沼干拓資料館では松島町の阿部利夫班長さんに説明をして頂きました。



元禄潜穴の入り口と資料館



水土里の集い 開会式

20日は、「3.11東日本大震災復興支援 水土里の集い～第34回全国土地改良大会inみやぎ～」へ参加しました。東日本大震災の影響で開催が危ぶまれていたとのことでしたが、宮城県土地改良事業団体連合会などの関係者のご努力により、例年とは違う形にはなりましたが無事開催されました。

水土里の集いでは、はじめに震災で亡くなった方への黙祷を捧げ、開会となりました。関係者の挨拶の後、土地改良事業功労者表彰が行われ、永年、土地改良事業に貢献した方々が表彰され、千葉県からは、天羽土地改良区の齊藤常務理事が農林水産省農村振興局長表彰を、また、香取市黒部川左岸土地改良区の平野理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受けられました。その後、地元土地改良区等から被災報告が行われ、最後の大会宣言では、がんばろう東北・日本をスローガンに一日も早い復興を目指してがんばっている土地改良区の若い職員の方々を大きな拍手で励ました。



(右)天羽土地改良区の齊藤常務理事
(左)香取市黒部川左岸土地改良区の平野理事長

21日の現地視察は、東松島市野蒜地区の地盤沈下により海面下となっている干拓地の様子と、仙台市の高砂地区では、津波による被害を受けた農業用施設(排水機場)の状況を目の当たりにして、バスの中では思わず唖ってしまい言葉にならないほどの衝撃を受けました。

特に野蒜地区は、昨年10月に釣り仲間と訪れた「かんぼの宿松島」周辺も瓦礫の山となり、大きな施設以外は、基礎を残しているだけで遠くからは更地の状態に見え、津波の恐ろ



東松島市野蒜地区の状況(正面がかんぼの宿)

海面下の干拓地(仮設道路)

全国土地改良大会inみやぎ〜に参加して

千葉県農林水産部耕地課 杉野 宏

しさを実感しました。また、海面下になっている水田を復旧するんだという強い意志を持って取り組んでいる地元土地改良区をはじめ、市、県の農業土木職員の方々の意欲を感じることが出来ました。

高砂地区は、地域の排水を担っている排水機場の状況を視察しましたが、仮設応急ポンプでは能力が不足し、先日の台風でも多くの農地が湛水したとのことで、能力をアップして復旧するようです。機場の周辺の水田は、まだ車が転がっている状況で、復旧は、瓦礫の除去、除塩作業を行い、さらに今後の営農を見越して大区画ほ場整備を進める地区もあるようです。



仙台市高砂南部機場の仮設応急ポンプ

県内でも香取地域や海匝地域など同様の被害を受けており、県も一日も早い復旧を目指して地域と連携して取り組んでおります。今回の現地研修会及び土地改良大会に参加した成果を今後の業務に活かしていきたいと思っております。



津波による被災状況

最後に、災害復旧のため大変忙しい中にもかかわらず、全国土地改良大会の企画・運営をしていただいた宮城県土地改良事業団体連合会はじめ関係者の皆様には大変お世話になりました。誌面をお借りして感謝を申し上げます。

全国農村振興技術連盟より県技術連盟へ義援金

千葉県農村振興技術連盟事務局

9月22日、全国農村振興技術連盟太田委員長が来庁され、森田農林水産部次長に義援金目録が手渡されました。

太田委員長からお見舞いの言葉とともに、義援金には国内の農村振興技術者はもとより遠く台湾の皆様からの義援金も含まれるとの説明がありました。

森田次長は、皆様の温かい支援に感謝申し上げたのち、県内の被災状況、復興への取り組みなどについて報告しました。

短い面談ではありましたが、技術者としての強い絆を感じ、復興への想いを新たにしました。



(右)太田全国農村振興技術連盟委員長
(左)森田農林水産部次長

頂いた義援金は、被害状況の調査・報告の取りまとめ、復旧工法の検討など有効に使わせていただきます。最後に、義援金をお寄せいただいた皆様のご厚情に対し、本紙面をお借りしてお礼申し上げます。

被災地区に義援金を贈呈

水土里ネット千葉

全国水土里ネット東日本大震災対策本部(事務局:全土連)から、心温まる義援金を頂戴したことは、夏号でご紹介いたしましたが、お預りした義援金につきましては、地域の被害額を考慮して適正に配分し、このたび9月下旬に県内29の被災土地改良区に対し、復旧復興資金として送金させていただきましたのでご報告します。

被災地域の1日も早い復旧・復興を祈念しております。

千葉市都市農業交流センターのご紹介

富田都市農業交流センター

畑や牧場に囲まれた農村部に開設された当センターは、春には約10万株のシバザクラが、秋にはセンター周辺でコスモスが見頃を迎え、花の魅力がいっぱいです。

また、大小3つの研修室の貸出しがあり、農業体験教室などが近隣農地と連携して行われています。

- ■所在地 …… 千葉市若葉区富田町711-1
- ■施設内容 …… ○管理棟<事務室、研修室>
※研修室の利用方法・利用料金についてはお問い合わせください。
○花畑(シバザクラ)○芝生広場 ○駐車場
- ■管理棟開館時間 9:00~17:00
- ■管理棟休館日 … 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ■交通案内 …… 千葉モノレール千城台駅から、おまごバスで「富田新田」下車、またはさらしなバスで「富田町①」下車、徒歩10分
- ■電話番号 …… 043(226)0022 ■FAX 043(226)0501
- ■ホームページ … <http://www.tomita-kan.jp/>



管理棟



花畑(シバザクラ)

下田農業ふれあい館(下田都市農業交流センター)

施設内には、新鮮で安全安心な地元農産物などを販売する「しもだ農産物直売所」と、旬の農産物を使った料理を楽しむことができるレストラン「ふるさと葉膳<澪>」があり、郷土の食をテーマに消費者と生産者の交流の場としてご利用いただけます。

- ■所在地 …… 千葉市若葉区下田町971
- ■施設内容 …… ○しもだ農産物直売所
○レストランふるさと葉膳<澪>○情報コーナー
○多目的広場 ○駐車場
- ■営業時間 …… ◇直売所9:00~17:00(時期により変動あり)
◇レストラン11:00~16:00
- ■休館日 …… 年末年始(レストランは月曜日休業。月曜日が祝日の場合は翌日に休業。)
- ■交通案内 …… JR千葉駅または千葉モノレール千城台駅から、京成バス「御成台車庫」行で終点下車、徒歩5分
- ■電話番号 …… 043(237)8011 ■FAX 043(237)8988
- ■ホームページ … <http://shimodafreai.com/>



レストラン



直売所

千葉市役所 農政センター
農業経営支援課都市農村交流室グリーンビレッジ推進班

■ 中田都市農業交流センター

当センターは中田廃棄物最終処分場の跡地を活用した市民農園がある施設です。

市民農園利用者には、農機具の貸出し、栽培相談・講習会などを開催するほか、種・苗・肥料なども販売しており、初心者から経験者まで幅広くご利用いただけます。

また、センター内には春と秋に見頃となる野バラ園やレクリエーションの場として利用できる芝生広場もあり、自由に見学することができます。

- ■所在地 …… 千葉市若葉区中田町2479-35
- ■施設内容 …… ○市民農園
1区画20㎡…280区画、1区画40㎡…113区画、
車いす使用者用プランター1区画4㎡…5区画
※利用方法・利用料金については、お問い合わせください。
- ○野バラ園 ○芝生広場 ○駐車場
- ○管理棟(事務室・農機具倉庫・トイレ)
- ■農園利用時間 ◇7:00～18:00(4月～9月)
◇8:00～17:00(10月～3月)
- ■管理棟休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
- ■交通案内 …… 千葉モノレール千城台駅から、おまごバスで
「平成元商前」下車、徒歩5分
- ■電話番号 …… 043(228)2251 ■FAX 043(228)2252
- ■ホームページ <http://nakatapark.com/>



市民農園と管理棟



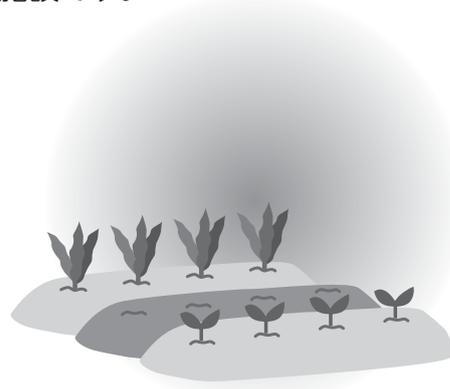
野バラ園

■ 都市農業交流センターとは

いずみ地区の位置



若葉区東部の鹿島川流域を中心とする「いずみ地区」に、都市部と農村部との交流を図ることにより、農業の振興と地域の活性化を目指す「いずみグリーンビレッジ事業」に基づき、富田・下田・中田の各地区に整備された交流拠点施設です。



両総用水の路ウォーク 《東金～山武》を開催して

両総土地改良区

平成23年11月9日(水)に両総土地改良区と千葉県ウォーキング協会共催の【両総用水の路ウォーク《東金～山武》】を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ県内外から総勢200名にご参加を頂き、無事、全員完歩する事が出来ました。

このウォーキング大会は、両総用水を造った先人達の思いや歴史を感じ、国営事業によって新しく生まれ変わった施設を実際に歩み学んで頂くことを目的として、東金市八鶴湖公園をスタートし、両総用水施設(南部幹線用水路・東金円筒分水口・公平水路橋・第3揚水機場等)を楽しみながら見学し、自然豊かで起伏に富んだ約15kmのコースを歩きました。



円筒分水工・公平水路橋では関係職員による施設概要の説明が行われ、参加者は真剣に聞き入って、「東金にこんな施設があったなんて」と驚いている方や、「このような施設を見学できるなんて貴重な経験です。ありがとう」と感謝する方もおり、職員一同大変嬉しく思いました。

昼食会場では、両総土地改良区が積極的に取り組んでいる『お米から食料自給率向上活動』の一環として、地元山武の米粉麺と秋の味覚きのこを使った『米粉麺入りきのこ汁』の炊き出しを行いました。300食用意しましたが、参加者からはおかわりが殺到し、あっという間に完食となる大盛況でした。



ゴール地点では、米粉関連商品の販売所でお買い物を楽しんで頂き、地元農産物のお土産を手にとり、笑顔で帰宅の徒につきました。

終わりに、両総土地改良区では、今回のウォーキングを通じて、来年以降コースを一新する等様々な工夫を凝らし、年間行事の1つとして継続していこうと考えております。

第17回

美しい農村環境 写真コンテスト

審査会の開催

水土里ネット千葉
管理指導部

「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに毎年実施しております写真コンテストも17回を迎え、皆様のご協力により127点の作品の応募がありました。たくさんの応募をいただき心より厚くお礼申し上げます。

7月22日(金)に審査会を開催し、最優秀賞(千葉県知事賞)他各賞を決定いたしました。



入賞作品について、今年度は千葉市内にありますQiball(きぼーる)1階のアトリウムに展示しました。また、表彰式は8月16日(火)13時30分よりQiball(きぼーる)13階にあります千葉市ビジネスセンターの会議室で執り行いました。



展示
状況

平成23年8月15日(月)～8月19日(金)
千葉市中央区中央 Qiball(きぼーる)アトリウム





第17回

美しい農村環境



最優秀賞(千葉県知事賞)

「楽しい稲刈り」

撮影場所:君津市 撮影者:春川 修夫

農の基本は稲作です。先人から営々として受け継がれてきた稲作文化は、日本人にとっては母と子のような関係として、しっかりと結び合っています。そうした基本的な農の実像を、見事なフレーミングで、象徴的に描写した秀作。



千葉県土連会長賞

「損傷屋根にもめげず」

撮影場所:香取郡多古町 撮影者:亀谷 宏

東日本大震災は千葉県にも甚大な被害をもたらした。田畑の亀裂、液状化、家屋の損傷など前挙に暇がない。災害のあった屋根と希望を象徴する鯉のぼり。そうした背景を背負いながら、水が張られた水面では田植えの作業が始まっている。災害国・日本の宿命的な再生の表現が巧みである。

特別賞



【千葉県農村振興技術連盟賞】

「麦わらトンボ」

撮影場所:南房総市千倉町大貫
撮影者:瀧口 和男

麦わらで作られたトンボの模型が初秋の空を飛翔するイメージがとらえられている。作った人と、鑑賞し写真として表現したお二人の意気投合した繋がりに、農文化的、農村芸術の一端に思いを馳せる作品となっている。外にどんな作品が展示されていたのでしょうか。



【千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会賞】

「初体験」

撮影場所:旭市
撮影者:嶋田 洋

稲刈りが終わった田んぼでたくさんの生き物に出会った少年たち。都会では体験できない自然の生態系に出会った。容器に入れられたカマキリなどの昆虫に関心を深める表情を的確に捉え、背景に深まる秋の気配を感じる大空の描写が良い。



【ちば水土里支援パートナー賞】

「牧草」

撮影場所:木更津市
撮影者:中島 高夫

広い緑のフィールドに白い球のようなものが点在し、水平線の上空でも白雲が点在していて、牧歌的な光景がコントラストを描く。白い球には牧草が包み込まれている。牧畜時代の新しい景観として描写された秀作。

写真コンテスト



特別審査員

作品評: 鏑山英次氏
(日本写真協会理事)

(撮影者: 敬称略)



金賞

「早朝のイベント会場」

撮影場所: 香取市 撮影者: 西宮 美知子

一見、騒然たる場面に見えるが、焼芋の広場が朝焼けの時間帯に撮らえられた光景である。人工的な景観とはいえ自然界の色彩と絡み、複雑な空気感に惑わされる写真です。
この時間帯でなかったら、どんな光景になっていたのでしょうか。非日常的な世界を描写した作品。



銀賞

「水仙に誘われて」

撮影場所: 鋸南町 撮影者: 小栗山 秀男

棚田状の段々畑に咲き誇る水仙。この冬は鋸南町の水仙は当たり年だったようだ。母子が連れ立って豊作の水仙に見入っているスナップ。画面全体の遠近感と、人物の配慮も巧みに纏められていて、全体の色調も水仙畑らしい気品が漂う作品。



「仲良し」

撮影場所: 旭市 撮影者: 村尾 良一

背後は刈り終わった水田。仲良し3人を引き立てるのに相応しい、単純で絶妙な色彩を選択している。明るい3人の表情は底抜けに明るく、コスモスを手にした笑顔が美しい。農村の景観に新たな風が吹き込まれているようだ。

銅賞



「活気な水田」

撮影場所: 香取市仁良橘ふれあい公園
撮影者: 下谷 一成

燦爛と降り濯ぐ太陽光、豊富な水を注ぐ近代的なバルブ。天高く翻る鯉のぼり。全てが出揃って、現代農村の活気に満ちた景観が隈なく揃っている中で、自然と文化が新しい農村の生活環境を創出するイメージを描写した労作。



「流霧」

撮影場所: 八街市内
撮影者: 川島 亥良

冷え込んだ畑。ポッチの影が長く尾を引く朝の一時。生き物のように一条の霧が地表を流れていく光景。限られた気象条件でしか出会えない現象を、狙い定めて捉えた傑作。



「若い後継者」

撮影場所: 富津市相野谷
撮影者: 菅原 謙太郎

若くて美しい後継者が、水田一帯を支配しているようなイメージを、見事に正面から描写していて、完成度が高い。緑に染まる中で、紅一点の後継者にインパクトがあり、印象的な秀作。

佳 作

「小焼けの田圃」 たんぼ



撮影場所：印西市瀬戸 撮影者：田村 雅彦
朝、夕のいずれでも紅色に染まるが、多分夕焼けの光景に違いない。田植えされたばかりの水田を幾何学的に撮っている。

「無病息災」



撮影場所：四街道市 撮影者：金親 俊夫
豊作と無病息災を祈るお祭りのスナップ。赤ちゃんの顔に泥を塗って健やかな成長を祈るお祭りだけに、アップの表現の描写も如何ですか。

「霜の朝」



撮影場所：八街市大関 撮影者：牛込 金次
冷え込んだ大霜の朝。葦葦きの南京ポッチを包んで言うように、一条の霧が流れる幻想的な光景を巧みに撮っている。

「初めての田植」



撮影場所：長生郡一宮町 撮影者：池嶋 清
苗を手に早乙女として登場したが、どうやら植え方が分からない三人娘だった。周囲の爆笑が聞こえるようだ。

「桜と水車小屋」



撮影場所：南房総市岩井吉井 撮影者：丸山 豊
桜の咲く里に小川があり、水車が回っている。いつまでも残したい日本の農村の原風景である。作者の熱い思いが伝わる描写だ。

「野の花寄せ植え風」



撮影場所：木更津市 撮影者：伊藤 洋子
水田の畦の一角だろうか。小空間に野生の草花が競い合って咲き出した関心事として、追跡するとちょっと華やかな世界が待っています。良い視点です。

「初体験」 はつ体験



撮影場所：匝瑳市今泉 撮影者：熱田 安夫
稲刈りの初体験を捉えている。もっとローアングルで子どもの表情を狙ったら感動的な世界があるかも…

「鯉に囲まれ」



撮影場所：香取市山田 撮影者：西宮 明
鮮やかな色彩に囲まれた田植えの光景。水面に映える鯉のぼりは風の強弱で激しく変化するのも興味深い。

「夷隅の春」



撮影場所：夷隅郡大多喜町 撮影者：齋藤 光生
春爛漫の中を走る“いすみ鉄道”。農村風景と共存する生活空間を巧みに描写している。

「大蛇祭り」



撮影場所：香取郡多古町牛尾 撮影者：越川 征雄
五穀豊穰、無病息災を祈る伝統的な秋祭りの大蛇担ぎは、今も続いている。練り歩き、疲れた表情が写し出されている。

「あじさい咲く川辺」



撮影場所：多古町 撮影者：川嶋 かね
胸が空くような広がる空間で、繰り広げられる水辺の光景。栗山川を行き交う船、両岸のあじさいも見事な描写ですが、画面の構成が単調です。

「山間の棚田」



撮影場所：鴨川市 撮影者：三浦 務
棚田の全貌が写し出され、稲刈りの作業を描き出している。彼方の谷間から昇る一条の煙にも関心を寄せているようだ。

「黒潮の里の花畑」



撮影場所…南房総市千倉町
撮影者…山口 正明

暖流の恩恵で、見事に咲き誇る冬季の路地花。画面の上方にもっと海を写し込んで、フレームしたら題名に近いでしょう。

「老いての頑張り」



撮影場所：君津市貞元 撮影者：渡辺 忠純
収穫期にシルバー人材センターから老人達が派遣されてきたが、懸命の働きに胸を打たれたという。そんな描写が伝わってくる。

「ホタルの里」



撮影場所：成田市押畑 撮影者：越川 卓爾
ホタルがもっと飛び交う環境を作りたいとしての描写。デジタルは暗い部分も十分に描写できるので、来年は再挑戦して下さい。三脚必要。

「水の週間」 中学生 水の作文コンクール入賞作品

千葉県総合企画部 水政課



「水の日」(8月1日)及び「水の週間」(8月1日～7日)は、水の貴重さや水資源開発の重要性について国民の関心と理解を深めるため、昭和52年に閣議了解で制定され、毎年この期間に水に関する各種の啓発行事が全国的に行われています。その一環として、国及び都道府県の共催により、次代を担う中学生を対象として「水について考える」をテーマに「全日本中学生水の作文コンクール」が実施されており、今年で33回目となります。

千葉県は広い県土と豊かな自然に恵まれているものの、県内河川の流れは短く、流域面積も小さいことなどから、水資源に関しては決して恵まれているとは言えません。このため、必要な水の約3分の2を利根川に依存しており、さらに利根川上流ダムの完成にはまだ時間を要するため、十分な水が安定的に確保されているとは言えない状況です。

そこで県では、利根川上流の水源地域の方々の理解や協力をいただきながら、水資源施設の建設を促進し、安定的な水の確保を図るとともに、雨水や汚水処理水の再利用等、水を大切にすする節水型社会を目指しているところです。

今回のコンクールには、水道水、工業用水、農業用水など、水への理解、関心がある中学生からの意見が多数寄せられ、県内の中学校13校から総数788編の応募がありました。その中から、特に優れた作品8編を千葉県地方審査会により選定し、去る8月3日に表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞、優秀賞及び奨励賞の中から農業に関する作品の合計4編を、原文のままご紹介します。

なお、最優秀賞の森千尋さんと優秀賞の南裕子さんの作品は、国の中央審査会においても入選されました。

最優秀賞

水と生きる

大多喜町立西中学校 3年
森 千尋



私たち人間をはじめとするあらゆる生き物にとって欠くことのできない大切なもの、水。その水の恐ろしいまでの威力と存在感について、こんなに考えさせられたことはない。豊かな自然と水に恵まれ、当たり前のようにその恩恵を受けてきた私たちの国、日本は、これからどうなってしまうのだろう。あの東日本大震災が起こって以来、私の頭の中はそのことでいっぱいだった。

3月11日、午前中にあった卒業式の片付けを終え、いよいよこれから私たちが学校のリーダーとして活動していくのだという気持ちで部活動を始めた。その時、あの揺れは襲ってきた。その揺れの恐ろしさより、その後目にしたテレビの映像の方が私の心に恐怖を覚えさせた。津波の「水」によって次々にのみ込まれていく道路や田畑、破壊されていく橋や建物、そして、まるで木の葉のように流されていく家や人々……現実起こっていることとは思えない光景は、私の脳裏から消えることはないだろう。圧倒的な水の威力に対して、私たち人間はあまりにも無力だった。人間がその流れをコントロールできると考え、築きあげた防波堤や防潮堤はいとも簡単に破壊されてしまったのだ。「想定外」という言葉では片付かない、自然の脅威を見せつけられた私たちは、黙って現実を受け入れるしかないのだろうか。

数日後、テレビを見ていた私は自分の耳を疑った。津波の「水」による被災者たちが、いちばん困っていることを訪ねられたとき、マイクを向けられた多くの人たちが、「食料と水」と答えているのではないか。水の力によって痛めつけられた人々が、今、いちばん必要としているものが水だというのだ。何という皮肉なのだろう。

その後、さらに信じられない事実が続いた。それは福島第一原発の事故による放射能汚染の問題である。想定外の津波の水をかぶったために起こった事故だと聞いたが、その影響は大きかった。ニュースを耳にした多くの人が水の買いだめに走り、一夜にして水不足となった日本。「被災地へ水をまわそう」という声もかき消されるほど、みんなが安全な水を求め、途方にくれる姿をどう考えたらよいのだろう。生きるために必死な姿を、誰も責めたり、笑ったりすることはできないと思う。

その後、私の暮らす大多喜町でこんな防災無線が流れた。「大多喜町は計画停電によって断水となります。」さらに数日して、「大多喜町の一部の水道水は利根川水域の水を利用しているため飲料水として使えなくなる可能性があります。」という放送だ。その時、母から聞いて、私は初めて知ったのだ。そんなに遠くの川から引いた水が自分の町で使われているのだと。また、父からはこんな話も聞いた。それは、昭和45年7月の大多喜町を襲った大水害のことだ。1時間に200ミリを観測する大雨が降った私の町は、川が氾濫し、道路が壊れたり田畑が水没したりして大きな被害が出たそうだ。日本中からの支援に助けられたけど、それでも復旧までに何年もかかったそうだ。

東日本大震災をきっかけに、私は、大切な水についてまだまだ知らないことがたくさんあるということを感じた。私たち人間は豊かな自然と水によって今までを過ごしてきた。そしてこれからもそれが続くと思っていた。でも、今回のことで私は気付いた。いつまでも当たり前のように恵みを受け続けることはできない。世界中に目を向ければ、今までの日本のように安心、安全な水がどこでも手に入る国は多くない。これから先、今、多くの被災地の方々が大変な苦勞を強いられているその姿が、私たちすべての姿になるかもしれないことを決して忘れてはいけない。水をどう使うかは私たち次第であるが、それは私たちの生き方が問われることであると思う。

優 秀 賞

人と水

千葉国際中学校 3年
南 裕子

今、我が家は節電ブームだ。大震災の電力不足によるものである。食事の時は電気代わりにスタンドを使ったり、使用しない家具のコンセントを抜いたりしている。その為、4月は3月の電気代の25パーセント削減に成功した。母はそれがとても嬉しかったらしく、更に厳しい節電体制が成されている。

私は毎月、祖母の家へ掃除の手伝いをしに行っている。先月(4月)には2日に行ったのだが、その時ある事に気付いた。祖母はお風呂の残り湯を洗濯に再利用するのである。しかし残り湯をくみ上げる機械が壊れてしまっていた為、私は新しいくみ上げ機の取り付けを頼まれていた。私は取り付けをしながらふと思った。「残り湯を使うから水は節約できるけど、くみ上げるのに電気を使う。それだったらあまり意味がないような気がする」つまり片方を優先すると、もう片方がおろそかになってしまうのだ。一応どちらも無駄にせずに水をくみ上げる方法はある。「バケツ」を使うのである。しかしこの方法は後に過度な筋肉痛になってしまう。「少くくらは水を無駄使いしても、皆も同じだからいいだろう。」そう思ってこれからは水を捨てる事を祖母にすすめた。今はすすぎ一回で洗濯できる時代だから大丈夫だと思った。

しかしこの作文を書く為世界の水不足について調べてからは、そんな甘い事を言うてはいけないうるようになった。なぜなら、今世界の6人に1人は水の足りない生活に苦しんでいるからだ。これを自分のクラスに置き換えてみる。すると6班ある班のうち1班は水不足という事になる。もしこの班が国だったら、どれだけの方が苦しむだろう。そう思うとゾッとする。更に私は何年か前に見たドキュメンタリー番組を思い出した。その番組はどこかの国の飲料水について取り上げていた。その国の人々は、バケツを頭にのせて遠くの池まで歩いて水をくむのだそうだ。それを考えると、風呂場と洗濯機の距離など全く苦にならない。更に池の水は泥で濁っているが、その地域では最もきれいな水なのだ。それに比べて私達はどうか？蛇口をひねれば必ず透明な水が流れ続ける。それに日本の水道水は、必ず塩素で消毒がしてあるはずだ。この差はひどすぎるのではないだろうか。しかし、私にはそれ以上にショックな事があった。それは日本にも、水不足に悩む地域があったという事だ。日本は「水に恵まれている国」である。だから水に悩む人はこの国にはいないと思ってきた。そうなるとうまでの水の使い方が情けなくなってくる。

だから水にゆとりがある私達は、ぜい沢に水を使うのではなく、常に節水を心がけるべきである。無理をしてまで節水をする必要はないと思うが、我が家の節電ブームのように楽しんで、ゆとりのあるうちから節水が出来ればいいと思う。ちなみに私の祖母は、私が水を捨てる事をすすめても決して残り湯を捨てなかつた。「もったいない。」と言っていた。「おばあちゃんはなんて偉大なんだろう」と今心から思う。私は美しい水だけではなく、祖母の心も受け継いで、また次世代へ託さなければならないと思った。

優 秀 賞

私たちにできること

館山市立第一中学校 2年
石井 優美



平成23年3月11日、東日本を中心とした大地震がありました。私は、体育館で卒業式の練習中でした。今までに感じたことのない大きなゆれに、泣きさけぶ人に、私はおどろきました。私は自分のいすの下に入り必死にふんばったのをおぼえています。地震はマグニチュード9.0。日本最大級の地震でした。東北地方から太平洋側では、大きな津波がおこり、大勢の人が命を落とし、いまだ行方不明の方が大勢います。そんな中、福島原発により、水などの汚せんが問題になりました。テレビで放射能がもれ、水道水は飲まないようにと言うとその何時間後には、私の住む館山の町からペットボトルの飲料水はあっという間に消えました。私は、母といっしょにスーパーやドラッグストアに行ったのですが、飲料水は1本もありませんでした。館山は、放射能もれのエリアには全く関係はなかったのですが、利根川の上流が範囲内にあるということからなのだと思います。被災地では、地震と津波のため水道から水は出ず、週に何度かしかこない給水車にはそれぞれタンクなどを持った人が並び、何時間も待ち、必要最少限の水を手に入れているのに、被災地の人達を思えば恵まれた場所にいる私達の身近でこんなことが起こるなんて、思いもしませんでした。コンビニで1リットル入りのペットボトルを何本か見つけた私と母は、「本当に必要な人が後から来るかもしれないから、とりあえず1本にしときますか。」と話し合い、1本を手に入れました。テレビでは、自衛隊による仮設のお風呂が用意され、大地震から何日か振りの入浴があった時に、インタビューされた方は、とても嬉しそうに、さっぱりした顔をして、ただありがたいと言い涙ぐんでいました。たくさん並んでいる人を思い早目に上がり、お湯もなるべく減らさないように、大事に使う。お風呂と同じに何日かぶりの洗たく。本当に水は大切なのだと改めて感じているように思いました。この大地震でも、幕張、浦安では液状化現象の被害で、水が使えない状態になっています。ここでも、給水車に頼って不自由な生活をおくっているのです。

私の父の会社では、会社の敷地内に浄水場があり、会社全体で節水に取り組んでいると聞きました。機械の洗浄や部品の洗浄など、大量の水が必要になり、環境上の排水規制があるために、浄水場ができたのだと思います。父にどのようなしくみになっているのかを聞きました。会社で使われている水は、水道水と井戸水だそうです。この水もすぐに使われるのではなく、バクテリアを取り除くために機械で2度程ろ過させて純水が作られます。この純水で機械部品や製品を洗浄します。洗浄をするときはかなりの水が使われます。汚れた水は、浄化し繰り返して使われ汚れた具合により発散処理されたり、水は工場排水として産ばい業者により処理されたりします。父の会社では、水がないと成り立たないと言うことがよく分かりました。社内での生活用水(トイレの水など)も浄化され再利用されているそうです。汚れた水は発散処理をするのだそうです。

私たちは、何ができるのでしょうか。やはり、生活水の節水だと思います。私は、入浴時に、シャワーを流しっぱなしにしてしまうのでまずそこから、節水を始めてみようと思います。

奨励賞

農家と水の関係

八千代松陰中学校 3年
北村 美貴

私の家は農家です。一緒に暮らしているおばあちゃんが農業を営んでいます。なので私の家の横には畑があり、少し歩けば広い田んぼがあります。また、近所に住んでいる人達も農家なので、周りは畑や田んぼばかりです。

なので、今回の大地震でたくさんの被害がありました。テレビで農家の方や農業の被害を見た時に、あまり他人事ではない気がしました。放射線被害やそれによる風評被害、断水や燃料不足など、人だけでなく農作物にも被害があると思います。

私はその中で、断水は特に困ったんじゃないかな、と思いました。計画停電で、家が停電した時に水が出なくて、とても困ったので水をたくさん使う農業では私たち以上に困ったのではないかな、と思ったからです。

まず、日本の水総使用量は834億トンになるそうです。それに対し、農業用水は549億トンで、約65パーセントを占めています。また、日本で1キロの米を生産するのに3,600倍の3.6トン水が必要、と算定されています。とうもろこしでは1,900倍、小麦は2,000倍、大豆は2,500倍もの水資源が必要と算定されていて、農業はたくさんの水を使うことがわかります。その水も無駄になることはなく、雨を有効に利用し、実際に消費される量のうち、蒸発部分は1~2割程度で、6~7割は使用後に川へ戻り、1~2割は地下水になり、下流の都市や農地で再利用されているそうです。

農業にとって、雨は大切ですが、自然現象の影響を受けやすいため雨による被害もあります。雨が降らずに日照りが続けば、作物は枯れてしまいますし、台風やゲリラ雨による大雨は、農地の浸水や作物の水没を起こし、せっかくの作物を台無しにしてしまうこともあります。さらに、土砂崩れで畑や田んぼ自体がなくなってしまうこともあります。つまり、作物にとって雨は、とても重要な存在ですが、多すぎても少なすぎても正常に育ちません。

そこで、近年では災害に対する備えや復旧技術が進歩し、被害を少なく抑えることができるようになっていきます。また、まったく予測がつかないゲリラ雨による農業被害に対し、国による補助事業があります。これは、畑や果樹園、さらに用水路やため池などが被害に遭った時に、復旧工事が一定額以上になった場合に適用されるものです。こうして農業が守られていることによって、私たちは安定した食生活を送ることができるのです。

私は、改めて農業というものは大変なんだな、と思いました。大変だけど、私のおばあちゃんは、親せきや私の友達が来ると、たくさんの野菜を笑顔で渡しています。お金を払ってる訳でもないのに、と思ったこともありますが、友達に「美貴の家の野菜はすごくおいしい。いつもありがとう。」と言われて、その理由がわかった気がします。

農業は、水と一番関係のあるものだと私は思います。たくさんの水を有効に使い、雨とも上手に付き合っ、作物を育てていくのは水とうまく関わっていかないと出来ないと思います。

農家の方が苦勞して育てた作物を、ありがたみを感じて食べるべきだし、その作物をつくるのにたくさん必要となる水を大切にしていけないと思います。

今年も「ちばの直売所フェア」開催!

—農林水産物直売所から元気を発信—

11月は、毎年恒例となった「ちばの直売所フェア」の開催月間です。

今年のフェアは、140か所の直売所が参加し、スタンプラリーを実施します。2か所の直売所を巡って応募いただいた方の中から抽選で、千葉県自慢の農林水産物を100名の方にプレゼントします。【下記参照】

さらに、期間中は60か所を超える直売所で収穫祭や特売等様々なイベントや特典を準備し、直売所から元気な千葉の農林水産物を発信します。

多くのお客様のご利用をお待ちしています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

新鮮・とれたて千葉の農林水産物プレゼント

総計
100名

【応募方法】 参加直売所に置いてある応募用紙に、2か所の参加直売所でスタンプを押して必要事項を記入の上、直売所の応募箱に投函ください。

【応募期間】 平成23年11月1日～11月30日 ※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

携帯からは
こちらから
アクセス!



ちばの直売所フェア

検索

ちばエコ 長狭米5kg



10名様



旬の新鮮野菜
ボックス

30名様



千葉県産 (南房総産)

温州みかん 10名様
5kg



季節のお花
詰合せ

10名様



南房総から、金魚草・スターチス等々

サツマイモ
「紅小町」
5kg

10名様



千葉の
落花生

10名様



千葉ブランド水産物
詰め合わせ
10名様



伝説の豚肉
「ダイヤモンドポーク」
の加工品
10名様



お問い合わせ先：千葉県農林水産部農村環境整備課 TEL 043-223-2782

※写真はイメージであり、実際の商品とは異なる場合があります。

ちばの直売所フェア 参加直売所マップ



第18回

美しい農村環境 写真コンテスト

〈テーマ〉
誰もが住んでみたい美しい農村環境

あなたが見つけた美しい農村や農村環境、
農村におけるさまざまな動きを教えてください

募集中



第17回 最優秀賞(千葉県知事賞)



第17回 千葉県土連会長賞



▲ちば水土里支援パートナー賞



▲千葉県農村振興技術連盟賞



▲千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会賞

各賞

- 最優秀賞(千葉県知事賞) … 1点(賞状・副賞)
- 千葉県土連会長賞…………… 1点(賞状・副賞)
- 特別賞 3点(賞状・副賞) ■銅賞 3点(賞状・副賞)
- 金賞 1点(賞状・副賞) ■佳作 数点(賞状・副賞)
- 銀賞 2点(賞状・副賞) ■参加賞 応募者全員に粗品進呈

応募締切

平成24年6月30日(当日消印有効)
 [応募先] 〒261-0002 千葉市美浜区新港249-5
 水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
 管理指導部 TEL 043-241-1728(直通)

※注意事項

- ・複数の作品を応募する際には、それぞれの作品に汚れ傷が付かないように十分注意して封筒等に入れ、送付して下さい。
- ・応募作品は原則として返却いたしません。返却を希望する場合は、送料相当分の切手と返信用の封筒を同封して下さい。
- ・応募作品の取扱いには十分注意いたしますが、汚れ、破損等、万一の事故に対する責任は負いかねますので、ご了承下さい。

応募要領

- 応募資格 千葉県内在住または在勤の方
- 応募規定
 - 千葉県内で撮影したもの
 - 応募作品について
 - ・カラー写真の単写真に限ります。
 - ・応募は未発表のもので1人3作品までとします。
 - ・写真サイズは四ツ切り(ワイド可)とします。
 - ・デジタルカメラで撮影した作品の場合は、撮影したままのもので、加工・調整した作品は応募できません。
 - ・人物が被写体の場合は、応募者の責任により肖像権に触れないようにして下さい。
 - ・応募の際は応募票に記入し、応募作品の裏に貼り付けて下さい。(コピー可)
 - 入賞作品について
 - ・入賞作品は1人1点までとします。(佳作はこれに限りません)
 - ・入賞作品の著作権は撮影者に帰属しますが、展示会や広報などのためのポスター・チラシ・ホームページ等の使用権は主催者に帰属します。
 - ・入賞作品は原版を後日提出してもらいます。(デジタルカメラの場合はオリジナルデータをCD-R等にコピーしたもの)

入選作品で
カレンダーの作成を
計画しています。
たくさんのご応募
お待ちしております。

水土里ネットちば 292号 (平成23年11月11日発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
 〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
 TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
 〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
 TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753